

平成24(2012)年度 法学研究科博士課程前期2年の課程 入学試験問題(一般選抜)

(科目名) 行政法

【第1問】

戦前の伝染病予防法・行政執行法では、患者に①入院命令を発した後、これに従わない者を②強制的に入院させる措置が採られていた。一方、現在の感染症予防法では、患者に③入院勧告を発した後、これに従わない者を④強制的に入院させる措置が採られている。①から④までの行為が行政法総論におけるいずれの行為形式に当たり、それらを旧法・現行法のように組み合わせることが行政法総論上どのような問題を含んでいるか、論じなさい。

【第2問】

無効等確認訴訟の原告適格(行政事件訴訟法第36条)に関する判例・学説の傾向を説明し、同訴訟の基本的な性格をどのように理解すべきか、論じなさい。